

## 緊急人道支援学会 ラウンドテーブルセッション

### 国内支援と国外支援の違い

#### ー能登半島地震 初動活動から読み解くー

- 紛争地/災害地に於いて国際緊急人道支援とは、食料や飲料をはじめとするモノの支援であり、1人の調整員が大量に采配することができる。では、国内支援ではどうであろうか？

日本の災害ボランティアは社協が初心者起用する特徴があり、「泥かき」などの「サービス」を提供するために多数の「人」をコーディネートするという特徴がある。言わば、ニーズ調査を行い、資機材までも用意しておく職業安定所型の災害ボランティアセンターのみが存在すると一般的には理解されている。(災害ボランティア内部では、社協公募の他に、NPO、技術系と呼ばれる「裏口」も存在することは、ほぼほぼ公知である。しかし、広くは語られず被災者が裏口を探し回ったり、マスコミも記事化<sup>1</sup>を苦慮している。) 悪者ボランティア、偽物ボランティア<sup>2</sup>との悪評を受けながら、裏では社協と繋がっていた(一群も居た)のであるし、繋がることのできない排除運用も未だ存在する。

また、医師、看護師など専門職のボランティアも別に存在するのだが、会話やマスコミ上でも、技術系ボランティアを専門的ボランティアとして扱い、専門職についての議論が為されて居るのか判然としない。少なくとも、高田や赤坂、災害看護学会には災害ボランティア高速道路通行証明書<sup>3</sup>の適用は無かったし、今後も適用外であるとのことである。

などなど、災害ボランティアセンター(社協)のコーディネートは理想とは「食い違っていた<sup>4</sup>」とする批判もあり、秩序化のドライブであるとの論考も有る。その背景には支援者間対立があり「提案地獄<sup>5</sup>」があるともされたため、災間期での議論さえもが避けられる空気感となり、そもそも災害サイクル(災間期の改善活動)が回って居ない。

さらに能登で目立ったのは、初動での「行く」派と、「行かないことが支援」派の意見対立であろう。東日本大震災、熊本地震でもマスコミを巻き込む形で意見対立が見られたが、能登では一般ボランティア公募(災害ボランティアセンターでの一般公募)が遅れ、ボランティアに行き難い雰囲気延々と続いた。ほとんど個人能力(責任、費用負担)に大きく依存した能登の初動活動をまずは紹介し、社協の災害ボランティアセンター設置を密やかに待っていたという実態も紹介し、議論の皮きりしたい。そして、昨年度緊急人道支援学会ラウンドテーブル6での、「JVOADはまだまだコーディネートできていない」に迫り、改善提言を試みる。

- 座長: 高田昭彦 復興ボランティアタスクフォース代表/富士フィルムビジネスイノベーションジャパン勤務 2004年新潟県中越地震を機に災害ボランティアデビュー  
技術系ボランティアをも指向するが、嵩じて研究者の領域に実務者(実践者)として入り込み、課題の「見える化」を試みている。

発表者1:赤坂勝之 DRO 災害救難活動

発表者2:熊澤晃 災害ボランティア (本業の勤務状況により、欠席の可能性あり)

発表者3:都原聖 内閣府(防災担当)災害即応調整員 元海上自衛官

#### ■ セッションの流れ(Plan of the Session)

高田の能登での初動活動発表(5分)、続いて赤坂の初動活動の発表(20分)、(状況に依り、熊澤の発表)、次いで都原より、内閣府の立場から発表(20分)。再度、高田に振って、初動のコーディネートが不発だった点を指摘する。到着していても、水面下で待機していて、社協災害ボランティアセンターが設置されると同時に「今着きました」を装っていた従来事情を赤裸々に暴露してしまう。今回能登での混乱は、到着していながら「今ボランティア始めました」を言い出せなかった、いわばチキンレース状態が1つの要因だろう。

さらには、悪者ボランティア、偽物ボランティアと表向き迫害されつつ、裏側では「顔の見える関係性」だとして実利を取って居り、結果論として排除される他者が居ても見て見ぬふりをする(連携しない)という、社協派ボランティア団体の実態を紹介する。(15分)

次いで、後からの相乗り準登壇者(一般公募)にも発表頂く(申し込みあれば)

#### ■ その他

事前の「仕込みメンバー」以外にも、後からの相乗り登壇者(準登壇者)を募集致します。

通常だと企画者(わたし=高田)の知縁者(顔の見える関係性)のみが、ラウンドテーブルの登壇者となります。(プログラムなどで)その後に本企画を知った人は【いち参加者】となるのが通例です。しかし、話題の特殊性、関係性の特殊さ【顔の見えない関係性】、【顔が見えて居るが苦手な関係性の存在】をも考慮して、対面/オンライン登壇を認める運用を行います。事前にパワポを作成の上で、以下にコンタクトくださいませ。2/26(水)まで。

連絡先 [fukkou.volunteer@gmail.com](mailto:fukkou.volunteer@gmail.com) ☎09038049824

<sup>1</sup> 高田昭彦 (2024.3.15.)マスコミ報道の能登半島地震への影響 災害情報学会予稿集

<sup>2</sup> 高田昭彦・遠藤正則 (2024) 災害復興学会 復興 34 災害ボランティアセンターの 20 年  
<https://f-gakkai.net/wp-content/uploads/2025/03/34-2-1.pdf>

<sup>3</sup> 高田昭彦 (2025) 能登でのボランティア王様ゲーム –わたしが馳知事、あるいは JVOAD であつたら– 能登復興実践研究予稿

<sup>4</sup> 筒井のり子(2013) 災害時におけるボランティアコーディネーションの課題 , ボランティアリズム研究 大阪ボランティア協会, 第 2 号 pp.62-71

<sup>5</sup> 内閣府 (2008.12.19) 第 8 回防災とボランティア検討会 検討会グループ C 議事録 半田 など

[https://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/meeting/081219/pdf/gurupu\\_c.pdf](https://www.bousai.go.jp/kyoiku/bousai-vol/meeting/081219/pdf/gurupu_c.pdf)